

## 学習内容と到達目標

☞ その仕事を選んだ理由、その仕事のいいところと大変なところ、いつも気をつけていることなどについて聞く。

## 指導のポイント

**1. INTRODUCTION** [4.VOCABULARY] を先取りする形で、各職業のいいところと大変なところについて話させる。この時、4課で学習した「～ことができる」や「～なければならない」を自発的に使えるようなら、学習がうまくいっている証拠。

**2. LISTENING** この会話は1課の「空港での別れ」のような「フレーム」がないので、会話のモデルとして使うのには不向き。したがって、ここでは会話の内容が理解でき、この課で学習する表現の意味を文脈の中で理解できればOK。

**3. FOCUS** ①ではナ形容詞・名詞の場合、「～ば」ではなく「～なら」になっていることに注意。②と③では動詞の肯定形しか練習しないので、ある程度スムーズに変換できるようになったら、④に進む前に動詞の否定形や他の品詞の変換の練習もしておく。⑤は4課で学習した「～なければならない」の復習も兼ねて練習。⑥では、「～ば」は「～と」と違い、後件に意志的な表現（教科書の例では「～ましょう」や「～てください」）をとることができる点に注意。また、「～たら」は「when」と「if」という2つの意味があるのに対し、「～ば」には「if」の意味しかない（同様に「～と」は「when」の意味しかない）、過去の事実を話す時には「～ば」は使えない（「あの時～ていれば、今ごろきっと～ていただろう」のような、過去の事実と反対のことを述べる言い方は14課で学習予定）。

**4. VOCABULARY** ③では「授業で使えるリソース」で紹介する大学生の職業意識調査などが話題を広げるのに役立つ。

**5. LISTENING** ①では内容の理解に重点を置き、1～5の質問の答を考えさせる。質問5の答えは決まっていないが、筆者が想定している職業はデザイナー（小西さん）、警察官（馬場さん）、ジャーナリスト（平野さん）。

短いやり取りの中にたくさんの情報が詰まっている上に、文法構造も「[[私がデザインした] 服を来ている] 人を見た時」のようにかなり複雑なので、学習者があまりよく聞き取れない時は、以下のようなプリントを作り、ディクテーションをさせる。

### 1. 小西さん

Q：どうしてこの仕事を選んだんですか。

A：子供のころから\_\_\_\_\_が好きだったし、  
\_\_\_\_\_も好きだったからです。

Q：仕事のためにいつも気をつけていることは何ですか。

A : \_\_\_\_\_ ようにしています。それから、  
休みの日には \_\_\_\_\_ たり、 \_\_\_\_\_ たり  
するようにしています。

Q : この仕事を選んでよかったと思うのはどんな時ですか。

A : それはもちろん \_\_\_\_\_ 人を見た時ですね。

Q : じゃ、反対にこの仕事で大変なことは何ですか。

A : \_\_\_\_\_ 時ですね。これは本当に苦しいです。

## 6. FOCUS

②で学習者から「反対に、後悔しているときはどう言えばいいのか」と聞かれた時は、「～なければよかった」を教える。ただし、こちらから率先して教えることはしない。

①と②の練習が終わったら、以下のフレームを使ってペアで会話の練習をする。その際、質問に答える側の学生（役割B）は自分の選んだ職業が何かを言わずにおき、ひととおり質問に答え終わった後で、聞き手（役割A）に何の職業かを当てさせるようにする。

A : どうしてこの仕事を選んだんですか。

B : \_\_\_\_\_ からですね。

A : 仕事のためにいつも気をつけていることは何ですか。

B : \_\_\_\_\_ ようにしています。それから、 \_\_\_\_\_  
ようにしています。

A : この仕事を選んでよかったと思うのはどんな時ですか。

B : \_\_\_\_\_ 時ですね。

A : じゃ、反対にこの仕事で大変なことは何ですか。

B : \_\_\_\_\_ ことですね/時ですね。

\*\*\*\*\*

B : では、問題です。私の仕事は何でしょう？

A : ○○○ですね。

B : 正解！/はずれ！ 残念でした。

## 7. PAIR WORK

学部 of 1・2年生や（これから大学に進学する）日本語学校の学生の場合、卒業後の進路についてまだ真剣に考えていない学生が多く、考えていたとしても、かなり現実的になっているので（ピアニストや野球選手を目指している学生はまれ）、話があまり盛り上がらなそう時は、話題を「子供のころ何になりたかったか」に変えて話させるようにする。

## 活動例

### ①アルバイト探し

- ☞ 学部の1・2年生や日本語学校の学生にとってより現実的な話題・テーマとして取り上げる。まず、どんなアルバイトがいいのか（あるいは「これなら自分にもできそうだ」と思えるアルバイトは何か）について考え、自分の条件（金銭的なことだけでなく、勤務時間や所在地など）に合った仕事をアルバイト情報誌などを使って探させる。見つけたら、教員がアルバイト先の担当者になって面接の練習をする。

## 授業で使えるリソース

- ☞ 毎日コミュニケーションズなど、複数の会社が毎年大学生の**人気企業ランキング**や**大学生の就職意識調査**の結果を発表しているので、これを年度別・業種別・学生の専攻（文系・理系）別など、様々な角度で分析してみる（韓国や中国における同種の調査と比較してみるのもおもしろい）。